

福島県飯館村スマイルアゲインサポート事業

取組に至る背景・事業の目的

- 2011.3.11 東日本大震災による福島第一原発事故で被災された方々は、今も故郷を離れて仮設住宅での生活を余儀なくされている。大町温泉郷観光親善大使である普天間かおりさんの縁により、福島県飯館村の被災住民を招待し、北アルプスの麓大町で大自然を満喫していただきたいという思いから会を設立。
- 大町温泉郷のホテルや旅館、地元企業、地域住民の協力により、心のこもったおもてなしで被災された方々に少しでも元気を取り戻して頂くとともに、大町温泉郷のホスピタリティを生かした特色ある観光地を目指す。

事業内容

仮設住宅に暮らす主に 60 歳以上の方を大町温泉郷に招待。2泊3日で大町の自然を満喫し、完成 50 周年となる黒部ダム観光や温泉郷で開催されるイベントを楽しんでいただくことで、束の間の息抜きをしていただくことができた。

春には温泉郷で開催された「さくら祭り」でコンサートを楽しんでいただくなど、観光客や市民の方とも交流していただき、自然豊かな大町ならではのホスピタリティを感じていただくことができた。



【 飯館村の皆さんと記念撮影 】

事業効果

【第1回4月24日・25日 80名招待】

ホテル夢の湯 30 名、ホテルからまつ荘 17 名、立山プリンスホテル・ホテル緑翠亭景水 33 名

【第2回9月16日・17日 70名招待】

ホテル夢の湯 25 名、黒部観光ホテル 9 名、ホテルからまつ荘・ホテル緑翠亭景水 31 名
立山プリンスホテル 5 名

お越しいただいた方々からは笑顔がこぼれ、心から喜んでいただくことができた。仮設住まいの苦労話などにふれ、まだまだ復興はしていないとつくづく感じるとともに、被災地のことを風化させることなく、継続的な支援が必要だと感じた。

参加いただいた皆さまからは多くの御礼状をいただき、「永い仮設暮らしで話題も少なくなりましたが、今は信州大町の事で盛り上がっています。次回は是非こちらから大町に伺いたい。」という声もあり、大町温泉郷の宿泊施設が連携すると共に、市民ボランティアや企業等、多くの協力により、大町のホスピタリティの成果を感じる事が出来た。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

大町温泉郷の宿泊施設の協力と支援金により、150 名を招待し大町のおもてなしを感じて頂くことができたが、資金作りという課題を痛感している。市民ボランティアによる募金集めなど多くの協力を得て、招待される方々の感動とともに、招待する側の感動を感じる事が出来た。今後はより多くの協力いただける方を募り、一丸となって大町のホスピタリティを全国へ発信していきたい。

【選定のポイント】

大町温泉郷の宿泊施設が連携し、2回の招待バス旅行を通じて大町温泉郷のおもてなしを感じてもらうことができた。今後も大町温泉郷のホスピタリティの発信につながる取組が期待できる。

団体名	大町温泉郷スマイル倶楽部 (大町市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0261-22-2611	事業費	4, 157, 590円
メールアドレス	yumenoyu@avis.ne.jp	支援金額	1, 145, 000円